1971年8月7日 第3種郵便物認可（毎月6回 1・6の日発行）
2019年8月1日発行　　ＳＳＫＡ頸損 通巻11016号

SSKA 頸損

KEISON No.128

目　次

特集　全国総会九州大会

初の全国頸損総会・九州大会を開催して ・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
全国頸損事務局総会報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
全体報告
2019 年度活動方針提起等
行けるところより、行きたいところへ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
時間を気にせず船旅を楽しもう ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
全国総会 — 愛媛からフェリーで — ＆ 2020 年全国総会岐阜大会決定 ・・14
飛行機で大分へ！ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
出逢いに感謝 ＆ 書籍紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

HAL® を使ったトレーニング、HAL FIT® ・・・・・・・・・・・・・・・・・18
NPO 法人 ぽしぶる「君は一人じゃない」 ・・・・・・・・・・・・・・・21
「君は一人じゃない - 介助者と歩む地域生活 - 」・・・・・・・・・・・・・・22
第 35 回 DPI 日本会議全国集会 in 松山・・・・・・・・・・・・・・・・・23
お役立ち“床走行式リフト”・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
報道ピックアップ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
年間予定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
本部・支部連絡先 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
編集部のページ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32

初の全国頸損総会・九州大会を開催して

九州頸髄損傷者連絡会 会長　神田　憲治

雨天の 2019 年５月 18 日（土）～19 日（日）、九州初となる年次総会「2019 年度 全国頸髄損傷者連絡会全国総会 九州大会」を、全国から約 80 名（頸損者 37 名）を迎えて、大分県別府市に於いて開催しました。

「九州大会」のテーマを「現代の最先端を生きる！頸髄損傷者達ー社会の動きを見抜くカー」と銘打ち、１日目は別府市社会福祉協議会を会場にシンポジウム、年次総会、夜は交流会を宿泊ホテルで行い親睦を深めました。２日目もあいにくの雨でしたが、別府市街の合理的配慮を体験するツアー参加者 16 名、市街地、文化財（竹瓦温泉）等を散策し、郷土料理も楽しんでいただきました。

総会テーマであった「現代の最先端を生きる！頸髄損傷者達ー社会の動きを見抜くカー」を基に、各種紹介・意見交換、交流会と、とても貴重な時間を過ごす事が出来ました。

今回の全国頸損総会・九州大会の担当支部としての大変だった点、苦労した点、エピソードですが、大変や苦労だと思うことなく、九州支部の仲間たちと全国総会開催に向けー丸となり、精一杯打ち込めました。

とは言え初の九州大会でしたので、案内記事の作り方や、開催内容、委任状はがきのレイアウト等、不安材料は沢山ありましたが、本部役員の皆さんのアドバイスやバックアップのおかげで無事終了出来てホットしています。

以前、全国総会に参加した際に「来て良かった」「素敵な風景」「今度は時間を取ってゆっくり来たい」と思いましたので、参加される皆さんに如何に「別府」の魅力を伝えられるかがカギとなりました。

結果、総会に参加していただいた皆さんと別府の観光地をすべて回るのは厳しいという結論に至り、渾身の力作、別府市内を車いすで巡るバリアフリー観光ＰＲ動画「ぶらり旅ザキ～別

府観光の巻～」が生まれました。

両日とも雨に見舞われましたが、遠いところ足をお運びいただき誠にありがとうございました。参加いただいた皆さま、別府は如何でしたか！

別府へ、またのお越しをお待ちしております。

総会会場にて

自己紹介　C4 レベルの参加者

ただ一人、人工呼吸器使用の参加者、米田さん

＜全国総会「九州大会」プログラム＞

5 月 18 日（土）

開会挨拶　九州頸損連絡会会長

シンポジウム/パネルディスッション

第 1 部：ＰＲ動画

別府市内を車いすで巡るバリアフリー観光

「ぶらり旅ザキ～別府観光の巻～」

第 2 部：

別府・大分バリアフリーツアーセンター紹介

九州頸損連絡会　若杉竜也

第 3 部：パネルディスカッション

全国頸損連絡会会長　鴨治慎吾

全国頸損連絡会事務局長　宮野秀樹

九州頸損連絡会会長　神田憲治

2019 年度全国頸損連絡会総会

交流会：別府亀の井ホテル 2 階　由布

5 月 19 日（日）

別府市合理的配慮街歩き企画

《案内人》九州頸損連絡会　後藤秀和/山﨑忍

2019年度全国頸髄損傷者連絡会総会報告

全国頸髄損傷者連絡会　宮野 秀樹

2019年5月18日（土）～19日（日）、九州支部に尽力いただき、総会を開催することができました。両日雨天という頸損泣かせの天候の中、シンポジウム、総会、交流会に多数の方が足を運んでくださり、九州初の全国大会でしたが盛会に終えることができました。総会の報告をいたします。

総会自体は、全ての議事において承認を得ることができました。議事は以下の通りです。

・2018年度 年間活動報告
・頸損者を取り巻く現状と課題
・2019年度 本部役員・事務局体制案
・2019年度 活動方針提起
・2018年度 収支報告書
・2019年度 予算案
・規約改正案

活動報告では、各支部の共通の問題として、会員数の減少、会員の高齢化などが浮き彫りになっています。会の運営に携わる頸損者がおらず、運営にも体力を奪われ、行事を開催することもままならない支部が増えています。頸損となって様々な困難を抱え、生活に苦しむ者は後を絶ちません。全ての頸損者が困難を克服して前進するためにも、連絡会の活動には意義があります。本部としても活動の灯を絶やさぬよう各支部の活動を援護協力していくことを表明しました。

頸損者を取り巻く現状と課題においても、問題は山積みであり、分野別活動方針にも挙げていますが、解決していかなければならない問題は多いです。これらを他者が解決してくれるのを待っているのではなく、自らが動く必要があります。頸損者の課題は、他の障害種にも共通するものもあるため、他団体と連携・協働していく必要があります。活動方針提起の「活動の基本的な考え方」にも示していますが、我々の今の生活をよりよくしていくためには、新しい時代に向けた動きをしていかなければなりません。積み残された課題を解決し、共生社会の実現に向けた活動を頸髄損傷者連絡会こそが率先して行っていくことに合意が得られました。

収支報告・予算案においては、大きな異議はなかったが、会員から「本部の運営を安定させるためにも会費を値上げする必要があるのではないか？」という意見がありました。活動を積極的・意欲的に行うためにも活動資金の確保は重要であるが、尚早に値上げをすることは避けたい。この意見については代表者会議で議論を深めていくこととしました。

また、現在「頸損解体新書2020」の発刊に向けた準備を行っており、製作資金について説明を行いました。製作にあたって助成金を申請していますが、選考から漏れた場合は、頸損基金を活用することに了承を得ました。

規約改正については、銀行口座開設や助成金申請時等で「全国頸髄損傷者連絡会設立日」の記載を求められ、手続きに支障をきたす問題が発生したため、設立日を明記することとしました。1974年5月11日が設立日として明記されることになりました。

2時間という限られた時間の中で、多くの議事を諮っていくことは大変でしたが、出席いただいた皆様のご協力のおかげで、無事に総会を終了することができました。

今後も会員の皆様の生活が障害を理由に低下することがないように、全国頸髄損傷者連絡会は活動を行っていく所存です。どうか活動にご協力くださいますようよろしくお願い申し上げます。

2019年度 活動方針提起

■活動の基本的な考え方

「Take Action(行動を起こす)」を胸に！～新しい時代に向けて～

当会は1973年(昭和48年)頸髄損傷者（以下、頸損者）有志7名が集まったことに始まり、今年設立46周年を迎えた。設立以来、どんなに重い障害があっても、自律して生きられる社会を求めて交流・連帯し、生活を改善しながら個々の問題解決のために”Take Action（行動を起こす)”してきた。

結果、人権条約である「障害者権利条約（以下、条約)」批准のために、障害は個人ではなく社会にあるといった視点（社会モデル）で行った国内法の整備に対しても、私たち抜きで私たちのことを決めさせないという理念の下、障害の枠を超えて連帯して声を届け、それが政策反映されている。

今年度も”Take Action（行動を起こす)”して、頸損者の生活困難原因を究明すると共に、条約の理念が権利侵害することなく各国内法に反映されているか、他団体とも協力して注視しながら、個々の頸損者が直面する問題の解決を目指していく。

条約締約国は取組状況を国連に報告する義務があり、2020 年、障害者権利委員会で政府報告が審査される。現在、委員審査の判断材料となる、政府報告の問題点を明確にするパラレルレポートの作成を日本障害フォーラムが進めている。条約を完全実施させていくには課題を明確にしなければならず、意見や優先事項が異なる障害者団体や関連団体が、折り合いをつけて調整しなければならない。課題が明確化された包括的なレポートを作ることができるか、審査に役立つ客観的データをどれだけ詳しく盛り込むことができるかが重要となる。当会も可能な限りの協力を行っていく必要がある。

当会の目指す社会は、障害者権利条約の求める人権の守られる社会であり「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（通称：障害者差別解消法)」の差別の定義の明確化、民間事業者の合理的配慮の提供の義務化等、積み残された問題解決を目指す。障害者差別解消のためには、建設的対話を経て合理的配慮がなされることが重要であり、その延長上に共生社会の実現があると考えている。

障害者基本法他、関連法改正の動きも監視し、障害者権利条約の規定を法律に盛り込ませるように、法改正に向けた活動に積極的な協力を行っていく。

医療では、新しい再生医療の技術が日本で実用化され話題となっている。頸損者に希望をもたらすことは歓迎であるが、過剰な期待を持つことなく冷静に対応したい。また頸損者に必要なリハビリテーションが提供できない医療点数制度となって久しく、結果、適切なリハビリサービスを提供できる病院・施設が減っている。医療・福祉分野における支援サービスについては、当事者の必要とするサービスと、現実制度のギャップを分析し「必要なサービスを、必要な人が、必要な時に」提供されるよう、政府に働きかけなければならない。

来年2020年に行われる、東京オリンピック・パラリンピックの3つの基本コンセプトにある『全員が自己ベスト・多様性と調和・未来への継承』は、当会のセルフヘルプの考え方に通ずるところがある。頸損者だけでなく全ての人が自分らしく生きられるよう、障害のあるなしの垣根を越えて協力・連携していく必要がある。

社会の一員としてあたりまえに生きていくこと、主体性が認められた社会人として生きることができ

る社会にすることが我々の目指すところである。「昭和」から生まれた行動が、「平成」のうねりで様々な法律の制定を実現させた。「令和」を真の共生の時代とする活動を展開していかなければならない。

■基本活動

「One Action(ひとり一人の行動)」へ！

頸損者が尊厳を奪われることなく、真にひとりの人間として心豊かに生きるためには、自己信頼の回復が必要になる。それは困難を乗り越え、多くの成功・感動を体験することで取り戻すことができる。

当会には逆境をはねのけ、人生を取り戻した経験者や、幾多の失敗を糧に、次こそは上手くやると困難に挑む挑戦者が数多くいる。必要とする情報を提供して人生を取り戻す一助となるのが当会の最大の目標であり、孤独になりがちな頸損者のためにひとり一人が行動するセルフヘルプ活動を行っている。

頸髄損傷者連絡会(以下、頸損連絡会)は当事者団体ではあるが、情報の提供は会員、非会員を問わず提供することを会活動のひとつとしている。今年度も以下の項目を活動の柱として運動を続ける。

❏頸損者へのセルフヘルプ、ピアサポートを積極的に実践
•各支部間の交流、支部のない地域での出張活動•招待活動等
❏頸損者の抱える問題を共有化し、問題解決の道を具体的に探す
•代表者会議、支部間交流、頸損同士の交流によって問題の共有化を図る
❏情報を収集し、頸損者及び関係機関等への情報提供をより充実させる
•機関誌•HPの内容充実、講演活動の充実
❏障害の枠を超えた各分野との交流•活動
•障害者団体、公的機関、学会、教育機関、分野別メーカーとの交流および関連会合への出席
❏他団体との統一行動
•介助、交通•まちづくり、制度改革などの課題を協力して行政への要請行動等

■活動重点目標

☆生活を向上させるための法律・制度・サービス改善交渉を行う
☆当事者の視点による意見を的確に伝えられる人材の育成を目指す
☆障害者支援を目的とする機関とのネットワークを拡げる

■分野別活動方針

●障害者の権利保障

◎差別解消法の積み残し課題を解決する。

①差別の定義が不十分である
②合理的配慮
③各則（教育・交通・介護・医療など）がない
④紛争解決の仕組みが不十分である

●介助制度

◎2018年度から新規実施された改正総合支援法の各施策に関し、各市町村で障害者自身にきちんと情報を届け、制度の運用が定まっていないものは早急に実施していくことを求め、頸髄損傷者の地域での自立生活が確立できる介助制度の拡充を今後も継続的に求めていく。

◎65歳到達時の介護保険移行によるサービス低下を防ぎ、介護保険と障害福祉サービスの併用や支給量についても不当な制限を加えないよう求めていくとともに、本会実施の「頸髄損傷者の介護保険利用状況実態調査」の結果をもとに、障害者施策に対する積極的な意見発信をしていく。

●交通・まちづくり

◎マスタープラン及び基本構想の作成を市町村に働きかけると共に、協議会や委員会等へ積極的に参画し意見、提案を行う。

◎身近な地域の小規模店舗、避難所となる学校、ホテル、共同住宅等の特別特定建築物として用途の追加と、規模の引き下げに向けて委任条例を作成するよう地方自治体に対し求めていく。

◎評価会議へは、全国 10 ヶ所（北海道、東北、関東、北陸信越、中部、近畿、中国、四国、九州、沖縄）で開催される地域分科会へ参加できるよう各支部で働きかける。

◎障害者権利条約の社化モデル理念による移動権を認めた制度を求めていく。

●福祉用具（補装具・日常生活用具）

◎自立生活に必要な機器が、適確、迅速、安価に入手できるよう求める。

◎ユーザー視点に立った製品開発を求め、積極的に参画する。

◎福祉用具の適切な選択、使用方法を指導助言できる人材の育成を行う。

◎災害時に必要な用具や機器が届く福祉用具供給システムの構築を求める。

●医療関係

◎頸髄損傷者が安心して治療・リハビリに専念できる医療点数制度を求める。

◎急性期・回復期に対応できる医療機関および訓練施設の不足解消を求める。

◎適切なリハビリテーション医療が受けられる専門機関の不足解消を求める。

◎高位頸髄損傷者に対する在宅医療支援制度および体制の充実化を求める。

◎喀痰吸引等研修カリキュラムの充実化を求める。

●住宅環境

◎自立生活者の輩出と社会資源の拡充を求める。

◎公営住宅の整備と増設を求める。

◎住宅整備・改修助成制度の改善を求める。

◎住宅問題解決と地域自立に理解を得るための講習会・勉強会を開催する。

◎住宅相談拠点設置と住宅情報および問題解決を図ることのできる人材の育成を行う。

◎各市町村のホームページで補助制度を認めた事例の公開を求める。

●所得保障・就労

◎安心して生活できる障害年金や関連手当の支給制度を求める。

◎障害者採用後の合理的配慮の確保を求める。

◎「在宅就労」以外にも、障害特性に配慮した多様な働き方の創出を求める。

◎独立した第三者の、公平な苦情処理、紛争解決機関の設置を求める。

◎誰もが一律に、一貫した機能訓練や職業訓練、学校教育が受けられる体制の構築を求める。

●女性の権利

◎定期的な学習会・交流会を開催する。

◎女性リーダーの育成を行う。

◎ジェンダーバランスへの提唱を行う。

◎強制不妊手術被害者救済に向けた活動へ参画する。

2019年度 本部役員・事務局体制

会　　長	鴨治　慎吾（東京）	
副 会 長	八幡　孝雄（東京）	
	村田　恵子（京都）	
	山本　格生（岐阜）	新
事務局長	宮野　秀樹（兵庫）	
編 集 長	菊地　敏明（東京）	
会　　計	山本　格生（岐阜）	
会計監査	三好　宏和（愛知）	
相 談 役	今西　正義（東京）	
	三戸呂　克美（兵庫）	
	坂上　正司（兵庫）	
事務局長補佐	鈴木　　太（愛媛）	
事務局員	木戸　　功（兵庫）	
	篠田　義人（岐阜）	
	宮原　映夫（東京）	
	島本　義信（大阪）	
	井谷　重人（愛媛）	
	毛利　公一（香川）	

平成30年度　全国頸髄損傷者連絡会　収支計算書

平成30年4月1日～平成31年3月31日

収入の部

科目	金額
前期繰越	953, 187
本部会費	31, 500
本部運営分担金	625, 500
寄付金等収入	1, 361, 588
本売上代金	2, 508
機関紙等売上代金	33, 420
受取利息	12
	3, 007, 715

支出の部

科目	金額
団体加盟費	142, 624
事務所使用料(H30年5月分～H31年4月分)	180, 000
事務諸経費	11, 512
通信・発送費	137, 128
機関紙等印刷・編集費	391, 340
会議費	73, 416
旅費交通費	96, 800
雑費	8, 918
全国頸髄損傷者連絡会基金へ(大口寄付金2口)	650, 000
	1, 315, 977
	3, 007, 715

上記のとおり報告します。

平成31年4月19日　　会計　　山本格生

平成30年度の会計について監査を執行し、収支は適正であり会計報告は正しく表示されていることを認めます。

平成31年4月19日　　会計監査　　三好 宏和

2019 年度　全国頸髄損傷者連絡会　予算

（2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日）

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前期繰越	1,315,977	団体加盟費	85,000
本部会費	50,000	事務所使用料	180,000
本部運営分担金	642,000	事務諸経費	30,000
寄付金等収入	650,000	通信・発送費	200,000
		機関誌等印刷・編集費	500,000
		会議費	160,000
		旅費交通費	350,000
		予備費	50,000
		次期繰越	1,102,977
	2,657,977		2,657,977

行けるところより、行きたいところへ

～　別府・大分バリアフリーツアーセンターの活動について　～

NPO法人自立支援センターおおいた　若杉　竜也

皆様、初めまして。この度は、私共の NPO 内の観光部門としての活動である「別府・大分バリアフリーツアーセンター」についてお話をさせて頂きます。

まず始めに、所在地からご紹介しますと大分県別府市の中心街にある、やよい天狗商店街というアーケード内に事務所を設置しています。

設立は 2014 年 4 月で、今年で 6 年目を迎え「巨大天狗」に毎朝、挨拶をしながら活動を行っています！

次に設立の経緯は、私共 NPO 法人自立支援センターおおいたは障がい者の自立をピア・カウンセリングや ILP（自立生活プログラム）等を使いながらお手伝いさせて頂いています。その中で、様々な相談を受ける事があります。中でも「観光や余暇の充実」に対する相談も数多くあります。そこで、これだけのニーズがあり自立した社会生活を送る上で、非常に重要な事だと認識し専門的にお手伝いが出来ないかと考えセンターを立ち上げました。

現在では、別府市を含め湯布院で有名な由布市、八幡様の総本宮である宇佐神宮のある宇佐市の三か所にセンターを設置し、大分県全域の様々な観光相談に対応できるセンターを目指すと共に県内外問わず多くの障がい者や高齢者でも気兼ねなく、観光を楽しめる地域を目指してスタッフ一同、積極的に活動を行っています。

加えて、私共は日本バリアフリー観光推進機構という団体にも在籍しており、全国に北は北海道から南は沖縄まで 22 団体との連携を図りながら、大分県だけではなく、日本全国が様々な方々に対応できるユニバーサルデザイン型の観光地の実現に向け切磋琢磨しています。

（URL：http://barifuri.jp/portal/index.html）

続いて活動内容は「①観光相談業務②調査事業（観光地、飲食店、宿泊施設、温泉、公共交通等）③ユニバーサルデザインコンサルタント事業④温泉入浴介助、⑤啓発活動（BF 観光の促進、公共交通等）」の五つを柱としています。この中でも調査活動に関しては地元の当事者を始めバリアフリー箇所だけではなく、障がい者の数だけバリアがある！を念頭に置き、バリアの情報把握も行い、細かなサポートを行っています。又、温泉入浴も堪能して頂ける様、現地調査はもとより、日々、スタッフが各所の温泉に実際に入浴を行ない情報収集し、加えて温泉入浴時の介助員も経験豊富なスタッフで対応させて頂きます！その他、観光時の車椅子、福祉用具、更には電動ベッドの搬入といった貸出等も行っています。

最後に、私共の合言葉である「行けるところより、行きたいところへ」を胸に今後も、皆様が行って良かった！と思って頂ける様、努力していきたいと思います。ご旅行の際には気軽にお声掛け頂ければ幸いです。皆様からの御連絡、お待ちしております。

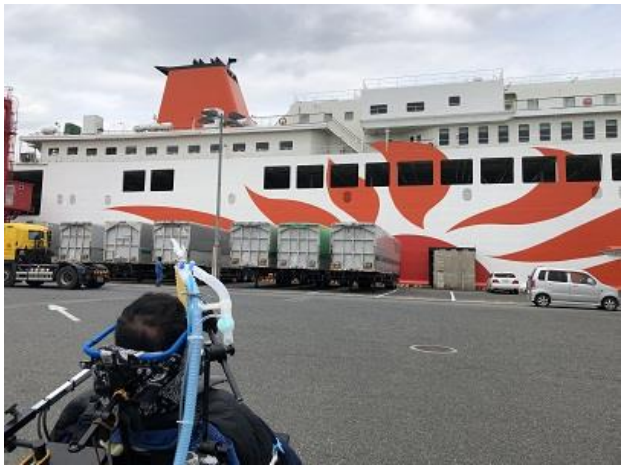
【連絡先】TEL:090-6633-4882
E-Mail:info@barifuri-oita.com

時間を気にせず船旅を楽しもう

兵庫頸髄損傷者連絡者　米田 進一

頸髄損傷になって初めて旅行をしたのが大分県別府市でした。12 年前に電車で行った思い出の地で全国総会が開催される事から、今年は何か一つでも経験していない事を新たに挑戦してみようと思っていました。

幾つか移動手段を検討していくうちに「船でも行けるのではないか？」と思い、移動手段の一つとして候補に挙がるようになりました。ネットで調べていくにつれて気になっていたのは、私の電動車椅子（以下、車椅子）が大きいサイズなので、客室に入れるのかということでした。入れなければ意味がないので、まずは見学からと思い「さんふらわあ」（大分港行き）と「阪九フェリー」（新門司港行き）が六甲アイランドから出ている事もあり、船着き場も隣同士だったので、3 月下旬の同日に見学を出来るよう、両船会社に調整してもらいました。



見学当日、午前中に「さんふらわあ」へ行きました。担当者に前もって伝えていた「人道橋を見せて欲しい」とのお願いに、「船に橋が架かっていない状況でも良ければ」との事で、建物側から近づく事が出来る場所まで案内をしてもらいました。船内を見学する為一度車に戻り、車両入場口より乗船し、見学しました。

3 階のエレベーター前に車を駐車し、エレベーターで『プロムナード』というレストランや売店等がある 5 階フロアに案内され、「神戸の人道橋から乗船する場合は 5 階のこちら側からになります」「大分からの乗下船は 4 階からになります」等、とても丁寧な説明を受けました。

船内のトイレ　広さも充分

そして事前に伝えていた条件に合う客室がある 7 階に移動し、エレベーターから一番近い部屋を見せてもらいました。事前にネットで確認し、一番気にしていた客室入り口開口部を通る事が出来るのか？は、フットサポートを外す事で室内に入れました。部屋に入ると思っていたよりも広く、ベッドは固定してあるものの、テーブルとイスを撤去する事で、車椅子をベッドの横に着ける事が可能であると分かりました。室内にはベッドが 2 台、ソファーベッド、収納式ベッドを含めると、最大 4 名が利用出来る様になっています。この時点で「船を利用しよう」と心の中で決めていました。ただ、まだ介助者の確保が出来ていなかったので、改めて後日、介助者が確定した時に、電話でご連絡する事をお伝えし下船しました。

担当者と別れ際に「ベッド移乗のお手伝いをお願いしたいのですが、可能でしょうか？」と尋ねたら、「要望にはお応えしたいと思いますが、船内スタッフ（以下、スタッフ）の仕事状況や時間帯によってはお待ち頂く事をご了承下さい」

という親切な対応だったので、“断らない姿勢”が私にはとても好印象で気持ち良かったです。

次に「阪九フェリー」に向かいました。客室の広さ等は申し分なかったのですが、移乗のお手伝いが出来ないとの事だったので、こちらは断念しました。

後日、見学時に撮った写真を元にスケジュールを立て、介助者の確保や荷物等の手配や準備に取りかかりました。ある程度スケジュールを確定した時、好印象だった「さんふらわあ」に電話を掛け、往復利用の予約をしました。一点だけ自分が見落としていたのは、通常は本予約から一週間以内に料金を精算しなければいけないということでした。しかし、担当者の計らいで、「当日精算でいいですよ」と仰ってくれ、あとは当日を迎えるばかりとなりました。

いざ船旅へ。5月17日（金）の18時30分頃に六甲ターミナルに到着し、受付を済ませ私は介助者一人と一緒に人道橋から乗船する事にしました。もう一人の介助者は車で車両入場口より乗船してもらう事にしました。私達は係員の誘導で最初に乗船しました。傾斜は若干ありましたが、スムーズに通れました。客室に入り荷物を整理し、エアーマットの準備を終えた時、銅鑼が鳴り 19時 50 分に定刻通り六甲アイランドを出航しました。テレビには航海ルートや現在位置、速度、天候、到着予定など航海情報が映し出されています。

デラックス部屋の様子の写真

いよいよ 11 時間半の長時間に及ぶ船旅が始まると思うと、年甲斐もなく興奮気味になりました。私自身も頸損になって初めてのチャレンジになるので、今回は良い機会であったと思います。部屋で夕食を摂りながら休憩していたところ、出航から約 1 時間過ぎた 21 時頃、明石海峡大橋の下を通過しました。本当は外に出て見たい所なのですが、段差があるのでデッキに出入りする扉を開放し、風を感じながら何とか見える側まで車椅子を寄せました。

やっぱり良いですね！迫力もあり凄く感激しました。明石海峡大橋の下を通過する瞬間を体験出来る事は、船ならではの特権ではないでしょうか。船の速度も時速 40 ㎞と表示されていたので、意外と速い事に驚きました。移動に半日を要しますが、『夜寝て次の日の朝に着く』船旅がこんなには思いませんでした。就寝準備の為、22 時にベッドへ移乗のお手伝いをお願いしたら 3 名も来て下さり、とてもスムーズにいきました。翌日の介助をお願いし、22 時 40 分頃、次の日の朝に備え就寝しました。

ベッドで就寝中

5 月 18 日(土)5 時過ぎに起床。介助者の一人がデッキに出て「雨が降っている」ことを教えてくれました。7 時 20 分に定刻通り大分港へ着岸しました。雨で車椅子のタイヤが滑る事を懸念し、私と一人の介助者は車で下船し、もう一人は写真と動画を撮ってもらう為、人道橋から下船してもらいました。車に乗り込み、私が車で使用する“ゴムラバー”を船内に忘れてしまっていた事に気づかず下船していたのを、後に知る事になりました。

大分港に着岸した「さんふらわあ　ぱーる」

傾斜が 15 度程ある大分港の人道橋

5 月 19 日(日)、別府での行事を終えて 1 日半振りに大分港に戻ってきました。受付時間を確認する為事務所に向かうと、係の方が“ゴムラバー”を預かってくれていました。しかもナイロン袋に入れてありました！前日に船内に置き忘れてしまっていたラバーを、廃棄物と思われても仕方がない物なのに、名前まで書いて丁寧に保管してくれていました。「ウソ～！ここまで凄いのか？さんふらわあさん！」と介助者と共に感服した瞬間でした。この様な心配りが出来る企業さんに好感度が急上昇した事は言うまでもありません。

帰りの船は「さんふらわあ　ごーるど」

行きと同様に二手に分かれて乗船しました。17 時に受付が始まり、2 階の待合室で休憩していました。雨による満潮の為か、船体に架かる人道橋の傾斜角度が約 15 度位有り、車椅子でこの坂の上まで行けるのかとても不安でした。

見た感じでは 1 階から 3 階へ上がるイメージです。介助型の車椅子では人によっては怖いと思われるかもしれません。約 1 時間近く待ち、沢山のトラックや車両、客が乗り込んだ頃、係員から「一度介助者に上れるか確認してもらいたい」と言われ、見てきてもらう事にしました。船体が重くなれば傾斜も低くなります。乗船出来る状況になり、介助者の一人に動画を撮ってもらう様お願いしました。傾斜角度も若干下がり人道橋を上がり始めると、先導員と介助者、係員各一名ずつ間に囲まれながら、ゆっくりと登りきりました。いろいろと気を遣わせてしまいました。すみません。

大分港の人道橋を上る様子

19 時 15 分、定刻通り大分港を出港しました。雨が強まり、部屋から眺める景色は少し見え辛かったです。また帰路に就く約 11 時間の旅が始まりました。雨と風が強いのか、若干船体が揺れていたので、船酔いとはいかないものの、この大きな揺れも船ならではの思い出でしょうか。22 時にスタッフ 3 名に来て頂き、ベッド移乗もスムーズに行えました。

5月20日（月）5時起床。現在地は姫路港沖を航海中、あと2、30分程で明石海峡を通過する所まで来ていました。明石海峡付近になって、また写真や動画を撮ってもらう様、介助者に指示し、私はベッド上で窓を見ながらその時を待っていました。そして明石海峡通過の瞬間、かろうじてですが見られて嬉しかったです。

明石海峡大橋を通過する瞬間を体験

5時50分になり、スタッフ3名(状況によっては人数に変動があります)が来て頂いたので、一人のスタッフにベッドから車椅子へ移乗する動画を撮ってもらう事にしました。

ベッドから車椅子へお手伝い頂きました

そして6時35分、定刻通り六甲アイランドに着岸し、エレベーターで車に乗り込み下船しました。初チャレンジとして挑んだ船旅は無事に終える事が出来ました。一つ一つの出来事が大きな財産となり、更なる第一歩を踏めたと思います。

船で二泊する事自体考えていなかったので、今回の体験はこれから船旅を考えている方へ伝えていく良い教材になったと感じています。時間を忘れ、ゆっくり移動する手段として、これからも活用していきたいと思います。

最後に、さんふらわあさん、楽しい思い出をありがとうございました。そしていろいろとご配慮頂き、心より御礼申し上げます。また機会があれば利用しますね。皆様も移動手段の一つとして、時間をかけた船旅を楽しんでみてはいかがでしょうか？

概要：株式会社　フェリーさんふらわあ
ホームページ：
https://www.ferry-sunflower.co.jp/
航路：六甲アイランド港 ⇔ 大分港
内訳運賃：片道料金　車代（身障者手帳半額）
17,400円　+　部屋代（デラックスタイプ）
当事者1名＋介助者1名まで半額、
もう1名介助者は正規料金　28,400円　＝
合計45,800円　※3ヶ月に1度料金変動有
※往復の場合は×2
渡航時間：片道約11時間半前後

12年ぶりに訪れた別府駅前にて

大分名物　とり天

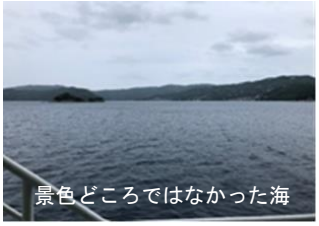
全国総会　― 愛媛からフェリーで大分へ ―

愛媛頸髄損傷者連絡会　三ツ井 真平

愛媛会員の三ツ井といいます。名前に小さい『ツ』が入ります。

今回大分の全国総会に参加するため、フェリーを移動手段に選びました。

電車なら岡山経由，車のみなら瀬戸大橋経由などありますが、フェリーを選択した理由は、安い!早い!メリットが多いからです。


景色どころではなかった海

フェリーも飛行機などと同様、何分前にということは言われます。フェリーの館内に入れるよう、二階に車で誘導するためです。

船内 2F 駐車場にて

一階からエレベータなど昇降機がついていないものが多く、事前に二階からなら入れるからです(広島、大阪などほかの県に行くフェリーはまた仕様が違います)。

車で登る際は角度がかなり急なので、アトラクション気分が味わえますが、僕はかなり苦手です。

車から降りて、外は一面の海。私が乗った時は天気が悪く、景色どころではなく、波も荒かったので、車内にずっといましたが、晴れたときの眺めは最高らしいです。

中はとても広く、バリアフリートイレもあります。

船内にて

事前に手帳の提示や早めにいかないといけません。天気によって左右される(乗り心地や、乗れるか?も含む)。ということはありますが、車でなくても車いすのみで乗れるものもあったりしますし、安くて速いのでおすすめです。

船内のバリアフリートイレ

特に電力もあるので、呼吸器の方とかにも安心できると思います。私は、フェリーを下りてから交通手段があるのか? あってもバリアフリーなのか。そこが場所によっては怖いので、そこも事前に調べたりしてます。

2020 全国総会　岐阜開催決定！！

日　程 ： 2020 年 5 月 23 日(土)･24 日(日)

総会会場 ： じゅうろくプラザ（岐阜駅隣接)予定　詳細未定

飛行機で大分へ！

東京頸髄損傷者連絡会　鴨治 慎吾

全国頸髄損傷者連絡会総会・九州大会のため、九州・大分県別府市に行ってきました。18 日のシンポジウムに参加するために前日の 17 日に行く事にしました。今まで九州には何度か行ってはいますが、別府はお初です。

経路を調べてみると、家から新幹線を使って 7 時間以上かかるとのこと。どうせなら飛行機だと今回は羽田空港から大分空港で行ってみようと思い可能かどうか調べてみました。

JAL のプライオリティ・ゲストサポートに連絡をしたところ、今回の大分空港行きの飛行機は機体的には搭乗できない機体がある(電動車いすを積めない)ということが分かり、可能な飛行機を探し予約を取りました。ちなみに、JAL では、プライオリティ・ゲストカードというのがあり、これに電動車いすの情報など、登録しておくと比較的搭乗がスムーズにいきます。

（羽田空港・プライオリティ・ゲストセンターにて）

移乗は JAL の男性スタッフによる人力です。
車いすを飛行機に積み込むには時間がかかるので、時間に余裕をもって行くのが良いです。

大分空港は初めて利用する空港なので、問題なく利用できるか不安でしたが、羽田空港よりスムーズに利用できたように思います。

（大分空港）

（リフトタクシーで別府へ）

大分空港からはリフトタクシーで別府へ、途中海岸通り沿いの別府タワーを横目に宿泊地亀の井ホテルまで。時間は約 50 分、料金は 17,000 円近くかかりました。

九州大会 1 日目は宿泊先の亀の井ホテルから徒歩で 20 分くらいの別府市社会福祉会館で全国総会九州大会シンポジウム「現代の最先端を生きる！頸髄損傷者達−社会の動きを見抜く力−」及び全国総会が行われました。その後ホテルに戻り盛大にレセプションが行われました。美味しい料理や全国頸損事務局長宮野氏の熱唱など全国頸損初の九州大会を楽しく過ごすことができました。

（レセプション後の記念撮影）

（別府・大分バリアフリーツアーセンター前にて）

2 日目は九州頸損の方々による別府まち歩き。別府市内を多くの車いすで堪能しました。

昔の風俗の名残や別府の温泉名人会、バリアフリーツアーセンターが行っている事業の話などを聞くことができました。観光地ということもありバリアフリーMAP 等の活動を積極的に行っているそうです。

その後、せっかく別府に来たということで“地獄めぐり”をしました。

別府駅前のバス停から鉄輪行きのバスに乗り海地獄へ。ここは基本車いす利用可で見るものも色々ありました。海地獄にある地獄蒸しプリンはお勧めです。

（海地獄にて）

別府での楽しいひと時を終え、帰路へ。

帰りはリフトタクシーでは無く路線バスで大分空港へ。駅から少し離れた別府タワー近くの別府北浜というバス停から約 1 時間半かけて大分空港へ。

金額は約 1500 円くらいで、行きのタクシーと比べると時間はかかりますがかなり割安です。

（別府北浜バス停から大分空港へ）

空港に着後、搭乗まで時間があるのでお昼ご飯を。

郷土料理のりゅうきゅう丼やとり天丼を存分に味わうことができました。

（大分空港でのりゅうきゅう丼）

帰りの飛行機は飛行機の機体に問題があり、機種替えとなり、おかげでビジネスクラスに乗ることができラッキーでした。搭乗もスムーズに行われ落ち着いてゆっくり帰ることができました。

この度、初めての九州での全国大会で九州頸損の方々には大変お世話になりました。ありがとうございました。またいつか別府に行きたいと思います。

別府・大分バリアフリーツアーセンター
https://barifuri-oita.com/index.html
JAL プライオリティ・ゲストサポート
https://www.jal.co.jp/jalpri/

出逢いに感謝

九州頸椎損傷者連絡会　折田聡美

私は、今回初めてスタッフとして全国総会九州大会に参加しました。大会の準備では、私達の住む別府の魅力を知ってもらおうと「別府・大分バリアフリーツアーセンター」のスタッフを中心に別府観光の紹介動画を作成しました。その他すべて「NPO 法人自立支援センターおおいた」スタッフ全員で準備を進め、開催が近づくにつれ参加者の返信ハガキが届き、日に日に増える県外からのハガキを見て、多くの方が介助者や家族と参加して頂けることを嬉しく感じ、皆さんに楽しんで頂けるよう準備しました。

私の当日の担当は受付で、初めてお会いする頸損仲間が家族や介助者と参加する姿を見て、全国各地で自分達と同じように活動している仲間がいると思うと心強く頼もしく感じました。

また交流会では、同じテーブルの方を中心にお話しましたが、初めて全国の仲間と直接情報交換することができました。同じ境遇の仲間と話すのは楽しかったです。実際に会って話すことで仲間たちが生活している街を訪ねてみたくなりました。

全国総会受付にて

書 籍 紹 介

書　名：わたしが障害者じゃなくなる日 ～難病で動けなくてもふつうに生きられる世の中のつくりかた
著　者：海老原宏美
出版社：旬報社
定　価：1500 円＋税
書籍についての問い合わせは（03･5579･8973）
Amazon 等でも購入できます

＜内容紹介＞
障害者なんて、いないほうがいいのでしょうか?
難病をかかえ、人工呼吸器とともに生きる著者からのメッセージ。
人は、ただ地面が盛り上がっただけの山の景色に感動できるのだから、
同じ人間である障害者に感動できないはずがない。必ずそこに価値を見いだせるはず。
重度障害者として暮らす著者が、その半生をふりかえりながら、
障害とはなにか、人間の価値とはなにかを問いかけます。

HAL®を使ったトレーニング、HAL FIT®

京都頸髄損傷者連絡会　畑本　卓成

京都の畑本と申します、C4～7 の不全です。全国総会でお会いする皆さんの力強さには毎年負けたと思ってしまいますが、ちょっと自分も頑張っている話をさせてください。

近年目まぐるしく進化し、病院のリハビリでは珍しくなくなってきた装着型ロボット、その中でも唯一生体電位信号を検出して随意コントロールするというサイボーグ型ロボット「HAL®」。この世界でも画期的なロボットを使ってトレーニングさせてもらえる施設があると聞いて 3 年ほど前に初めてお伺いし、そのトレーニングを体験して以来月 1 回ペースで続けていますので、それについて少しお話させていただきます。

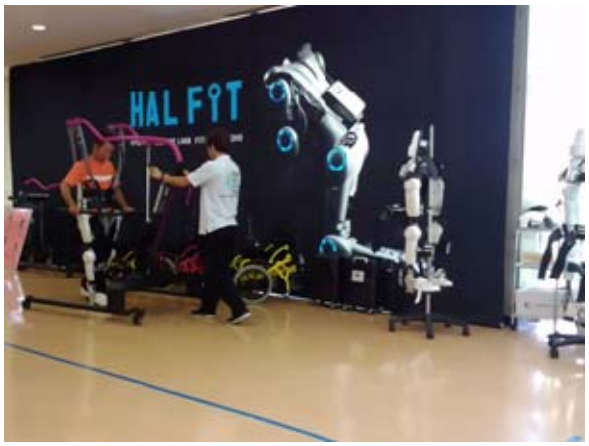
3 年ほど前、この HAL®については、腰に装着して建築現場などでの作業を補助するタイプが TV ニュースで取り上げられていたことがあり、ロボットが現実のものになってきたなと思っていました。また、毎年 4 月に大阪南港で開催されるバリアフリー展では、下肢に装着するタイプも展示されていましたが、それについてはデモンストレーションなどを見ることができず、まだまだ遠い存在だと感じていました。

その頃自分は、当時京都では限られた病院しか導入していない吊り下げ式トレッドミルを使ったリハビリを受けていましたが、病院が閉院したため仕方なく代わりのリハビリを模索していました。

きっかけは高校時代の同級生と Facebook を通じて再会したことでした。その同級生は大阪の国立大学の付属病院で脊椎専門医として活躍していましたので、早速診てもらったところ、「この状態やったら、HAL®を使った治療が受けられたらいいんやけどな」と言うのです。彼のいる大学病院は脊損治療の研究について色々発表しているのを知っていましたので、それでもそう言うならちょっと真剣に導入している病院に行ってみようと思いました。

そして、その直後の労災の訪看の時に、看護師さんに相談したところ、「鈴鹿ロボケアセンター」というところで HAL®を使ったトレーニングをしている方がおられるから、1 度行ってみたらどうですかと教えてくれました。病院よりこれだ！と思い、早速 HP を見て電話し、その体験を予約しました。

さて、いよいよ待ちに待った HAL®の体験です。それまでの経緯があったので何となく続けられたらいいなと思いながら体験させてもらいました。鈴鹿ロボケアセンターのトレーナーさんにまず自分の状態をお話しし、トレーニングについての説明を受け、ストレッチの後、吊り下げ式の歩行器「オール・イン・ワン」を使って免荷して歩いて下肢機能を確認してもらいました。そしていざ装着、その装着感はお腹と腰周りが引き締まり、重量感があってガチガチ、装着しただけでこれならこけないと思える安定感がありました。



「オール・イン・ワン」トレーニング風景

さあ、いよいよ動きます。今度は吊り下げ式トレッドミル「HAL トレッド」で免荷し、まず試しに足踏みです。免荷しているとはいえ、全くできなかった足踏みが、なんとできるではないですか、鳥肌もんですね。自分で動かしているという感じです、できるという。トレーナーさんがスムーズに動けるように調整してくださって、さあトレッドミルです。最初は出力の調整をしてもらいながらゆっくり、でもそこにはちゃんと自分で足を動

かしている感覚がありました。

「ＨＡＬトレッド」後ろから

かつて京都の病院では2年近く続けて0.8km/h、最速でも1.2km/hがやっとでしたが、徐々にスピードを上げていくと初めてのトレーニングでなんと1.6km/hに対応できました。今まで使えなかった筋肉を少しずつ使えるようになり、動きが変わっていくのがわかります。それも障害を負う前の感覚と違う、これまでなかった感覚で動いていることに気がつきました。

「ＨＡＬトレッド」横から

傷ついた脊髄は治りませんので、リハビリをしても以前の感覚では動くことはないでしょうけど、どうやらHAL®を使って動かすイメージを新たな感覚として習得すれば、動かせなかったところが動かせるようになっていくようです。「リハビリ」ではなく正に「トレーニング」ですね。HAL®が動かしてくれるのではなく、こちらの意思に沿ってアシストしてくれるのです。トレーニングの最後にHAL®を外しても、同じように動けるのはそのおかげだと思います。アシストがなくなるので負担がかかって持続はできませんが。さらに暫くは普段の生活でも、立ち上がらないといけない場面で動きが格段にスムーズです。

この体験でHAL®を使ったHAL FIT®は、新たに動きを獲得するトレーニングだということがよくわかりました。失った機能を回復させ、体の状態を維持するためのリハビリとは少し違いますので、これは続けるしかないと思い直しました。トレーナーさんが、HAL FIT®の効果がはっきり出ているので集中的にトレーニングしてみたいですね、と言ってくれるほどHAL®が自分に合っているようです。

「オール・イン・ワン」＋ ステップボード

今では、予約の関係やヘルパーさんの段取りなどで月1回、仕事が忙しい年末などは間が空くこともありますが、それでも続けて3年になろうかというところです。「HAL トレッド」ではなんと4km/hにも対応できるようになりましたので、メニューを変えてロボケアセンター内のフロアを「オール・イン・ワン」を使って歩くトレーニングをさせてもらうようになりました。自分の力で前に進む動きを獲得するためです。そしてさらに今では、高さ20cmほどのステップボードに乗り降りする動きも、同時に組み合わせてトレーニングして

います。こうやって少しずつですが立位でできる動きが増えていますので、これから先もできるだけこの HAL FIT®を続けたいと思っています。

昨年 10 月に大阪の堺市北花田に大阪ロボケアセンターができましたので、そちらにも行ってみました。なかなか時間が作れず見学体験させてもらっただけになっていますが、今後は上手く組み合わせて短い周期でトレーニングできたらいいなと思っています。

また、この HAL®については、NPO法人日本せきずい基金主催の「Walk Again 2016」で iPS 細胞による脊損治療の際のリハビリに必要なものとして話題に上がっていましたので、さらにこれから進化していくのでしょう。

ロボケアセンターは最近岡山にもできたと聞きましたので、全国で 10 か所（7 月 1 日現在）あるようです。これから皆さんも機会があれば是非、装着型サイボーグ HAL®を体験してみてください。きっと、何かが得られるはずです。

（HAL®について詳しくは　https://www.cyberdyne.jp/）
（ロボケアセンターについて詳しくは　https://www.cyberdyne.jp/services/RoboCare.html）

参考：CYBERDYNE 株式会社　プレスリリース　2016.04.25　更新

【ニュース】厚生労働省：神経筋難病疾患に対するＨＡＬ®の治療に係る技術料等の保険点数解釈を公表　～ロボット治療として世界初の公的医療保険の償還価格が決定～

厚生労働省保険局医療課より平成 28 年 4 月 25 日夕刻付の事務連絡において、HAL医療用下肢タイプ（2015 年 11 月 25 日に医療機器製造販売承認）を利用した神経・筋難病疾患患者に対する治療にかかる技術料の解釈が以下の通り公表され、ロボット治療として世界で初めて一般の公的医療保険の償還価格が決定しました。

NPO法人 ぽしぶる 「君は一人じゃない」

兵庫頸髄損傷連絡会　土田 浩敬

はじめに

みなさんこんにちは。兵庫頸髄損傷者連絡会の土田浩敬です。今回は兵庫県三田市を拠点として活動する“NPO法人 ぽしぶる”（以下ぽしぶるとする）が主催として開催した地域セミナー「君は一人じゃない ～介助者と歩む地域生活～」の報告をいたします。

セミナーについて

日時は2019年6月29日(土)の13:30から開催されました。場所は JR 三田駅前にあるキッピーモール 6階の多目的ホールで行われました。テーマ「君は一人じゃない」は普段地域で暮らしている障害当事者5名からの実践報告です。

介助者が共にいることで、普通だったら諦めてしまうような夢や、挑戦することすら諦めてしまう目標、これからの夢に、取り組んだり達成したという貴重な報告会になります。

準備にあたり

私は、ぽしぶるの当事者スタッフですので、年明け以前から地域セミナーのために、会議を重ねてきました。私自身もセミナーで登壇するにあたり、発表資料を作って、セミナー当日がどうなるかをイメージしながら本番に備えました。これまでのセミナーやシンポジウムでは、後援名義や協賛をいただくために、関係各所をまわったり、電話で連絡したりしていたのですが、よりぽしぶるが地域に根付いたものにしていこうという事で、近所の飲食店からコンビニ、美容室まで幅広く足を運び、セミナー開催にあたっての趣旨説明を地道に行いました。

もっと自分たちの住みやすい、暮らしやすい地域社会になるように、まずは私たちの事を知ってもらい、重度の障害があっても、いろんなことにチャレンジしたり、目標を持って生きていける環境があるんだということを伝えられるセミナーになるように、スタッフや発表者で準備をしてきました。もちろん介助者も共にです。

「君は一人じゃない」当日

セミナー当日は晴れ、ぽしぶるの行うイベントは毎回晴れている気がします。私もいろいろな場所で発表を重ねてきましたが、満足のいく発表は今まで行ったことはありません。毎回資料はイメージしながら作るのですが、自分が伝えたいポイントを上手く伝えられてない気がするのです。いつも反省の繰り返しです。資料作りの段階では、いい感じにイメージしながらできるのですが、まだまだ私は場の雰囲気に飲まれているところがあるのかなと思う次第です。

さて今回はというと、もっと来場者の心を掴むような話の持って行きかたや、一番伝えたいことを、いかにして伝えるか。私にとっては、また課題の残る発表となりました。考え方を変えて、伸びしろがあると考えるようにします。

私がどのように地域で暮らし、これからどうしたいのかは、ある程度は伝えられたつもりではあるのですが。

地域セミナーまとめ

他の登壇者の発表を聞いて、考えさせられることや、単純に面白いなと感じた今回のセミナーでした。発表者のみなさん、様々な過去や想いを抱えて地域に暮らし、障害がありながらも挑戦したり、不便な面もありながらも楽しく暮らしているのです。そして、それぞれがこれからの夢を叶えるために、努力して前に進む中で、共に介助者がいます。

それは、不可能と思っていたことも可能と思える「Possible」ぽしぶる（可能性）を信じて、これからもそれぞれの道を前進し続けるのです。

「君は一人じゃない - 介助者と歩む地域生活 - 」

兵庫頸髄損傷者連絡会　島本 卓

2019 年 6 月 29 日(土)に、特定非営利活動法人ぽしぶるが主催する「君は一人じゃない - 介助者と歩む地域生活 - 」が、三田市まちづくり協働センター多目的ホールを会場に開催されました。

会場には、障害者、家族、支援者、医療福祉を目指す学生、建築関係、教育関係、行政関係など 100 名が参加していました。

今回、私も頸髄損傷としてゲストスピーカーに参加。他 4 名の障害者もゲストスピーカーとして計 5 名が発表しました。ゲストスピーカーには、頚髄損傷、脳性麻痺、ALS(筋萎縮性側索硬化症)の方がいました。

各発表者が自らの障害について話し、地域での生活の現状と課題を話された。また内容には「人との関わり」「夢を追いかける」「人生のリカバリー」についても話されました。私は自身の発表で、実家での在宅生活から一人暮らしをするきっかけについて話しました。私が現在、所属している当事者事業所との出会い、情報が得られたことで自立というものがイメージしやすく、第一歩を踏み出せたことを話しました。

会場におられた参加者は、みんなの発表を興味津々に聞いていました。なぜなら 5 名の発表した内容には、障害によるまわりとの違いではなく、多くの方々との出会いを喜び、目標をもって進み続けていることを熱く話したからです。

女性スピーカーの方が、ハローワークに行かれた時の内容を話されました。「アルバイトがしたい」と伝えると、ハローワークの職員が「障害者の斡旋はしていない」との返答だったと言われていました。とても驚愕な思いで聞いていましたが、私の中で印象に残っています。

他のスピーカーからも、自らの経験を同じ障害者に情報発信しながら活動をしています。また各自のやり方や価値観は違うかもしれませんが、人生のリカバリーをし、社会参加、自立をしていると思います。

今後も、誰かに障害の理解を求めているわけではありません。ただ不安を抱えることなく生活をあたりまえにでき、働くことのできる世の中になることを望んでいます。

続いてパネルディスカッションが行われました。

大学生の方から「街で障害者のかたを見かけたら、どのように声をかけたらいいのか」という質問がありました。

スピーカーから、「声をかけてもらって嫌な思いはしない。また、障害者は困っているというふうに思われがちだが、意外と困っていないことが多い。意識をして声をかけようとするとなかなか声がかけにくい。例えば、おはようございます、こんにちは、のように挨拶からしてみてもいいかもしれない。気にしてくれているだけで嬉しいと感じる」。

障害者の方から「ヘルパーさんに、どうやってしてほしいことをお願いすればいいか」という質問も出ました。

ヘルパーさんとの距離が重要だと思います。自らができることをし、サポートが必要な内容をお願いすればいい。ヘルパーさんに、どうやればしやすいかなど、投げかけることもコミュニケーションをとるといった意味で関係性の構築になると思います。

最後に今回の地域セミナーに参加したことによって、私自身の自己実現ができているのか、といったところを考える機会になりました。自己実現できているのかと聞かれると、私の場合は、何をやりたいのか探している途中という答えになります。現在は、人に関わることをやっています。私は、人に関わることが一番向いているのかもしれません。だからこそ今後も人に関わることを、継続していきたいという思いが強くあります。そこには自分の経験をもとに、同じ境遇で困っている、情報を必要としている障害者に情報発信をし続けていきたいと考えています。

今回のような地域セミナーがいろんなところで開催されることを望むとともに、障害者の思いや意見を交換できる場が今後も広がっていくことを願っています。

報告：第35回 DPI日本会議全国集会 in松山

障害者権利条約に沿った社会へ　～ おいでんか 癒しの愛媛へ ～

副会長　村田 惠子

四国で初開催となる「第35回 DPI 日本会議全国集会 in 松山」が5月30日(木)、31日(金)、愛媛県松山市の松山市総合コミュニティセンターを会場に開催された。

大会テーマを「障害者権利条約に沿った社会へ～おいでんか　癒しの愛媛へ～」として全国から 300名近い参加者があった。地元開催に尽力された当会愛媛支部長の井谷氏の愛媛の魅力に触れられるおもてなしにより、愛媛の地に全国各地から集まった参加者は交流を深めた。またDPI韓国よりナ・ウンファ副会長が来日され、今後のアジア各国との連携に向けた韓国と日本の交流をあらためて呼びかけられた。

全国集会は30日(木)午後から「認定特定非営利活動法人 DPI日本会議2019年度総会」、地元特別企画「おもてなし松山　観光地巡り ～バリアフリー歩き～」と題して、松山空港、JR松山駅、松山市駅からのバリアフリー観光ルートの紹介、懇親会が開催された。

31 日(金)は午前の全国集会開会式には国会議員、市議会議員、DPI韓国副会長他の来賓に列席頂いた。

全体会はテーマを「来たぞ見直し！障害者権利条約の完全実施へ国内法のバージョンアップを！～障害者基本法改正から障害者差別解消法見直しへ～」として開催。

＜第一部＞は①「JDF パラレルレポートの概要と建設的対話への流れ」尾上浩二氏（DPI 日本会議副議長・内閣府障害者施策アドバイザー・JDF パラレポ特別委員）②「SDGs（持続的開発目標）と CRPD（障害者権利条約）ヨーロッパの視点から」ジャンルック・サイモン氏（DPIヨーロッパ議長・DPIユナイテッド事務局長　※ビデオ出演）の報告。

＜第二部＞「障害者差別解消法３年後の見直しへ」をテーマに「障害者差別解消法PTの取り組み」を佐藤聡氏（DPI 日本会議事務局長）が報告、続いてシンポジウム「障害者差別解消法の見直しの論点」を、シンポジストに阿部一彦氏（日本障害者フォーラム代表・日本身体障害者団体連合会会長）、川島聡氏（岡山理科大学准教授）、辻川圭乃氏（弁護士）、高橋信行氏（全国盲ろう者団体連絡協議会会長・えひめ盲ろう者友の会理事長）を迎え、平野みどり（DPI 日本会議議長）がコーディネーターを努めて行った。

午後は分科会と特別分科会が 4 会場で開かれ、（１）地域生活「障害者権利条約19条から考える地域生活と障害者総合支援法の改正」、（２）教育「障害者の高校進学について」（３）障害女性「優生保護法が奪ってきた当事者の選択～幸せはわたしが決める～」（４）特別分科会「改正バリアフリー法を活用し、地域バリアフリー整備を推し進めよう！」という各テーマで議論が交わされた。

また昨年１月に宮城で始まり、北海道、東京、静岡、大阪、兵庫、熊本と各地の提訴に繋がった「優生保護法国家賠償訴訟」は仙台地方裁判所で全国初の判決が出たが、国の違憲を認めながらも国家賠償請求は棄却するという判決は障害をもつ私達の人権をあらためて問うものだった。障害者権利条約に批准しながら障害者に対する非人道的扱い、人権侵害、差別、虐待が無くならない現状に会場は心痛な雰囲気に包まれた。

そんな中、平野議長より「優生保護法国家賠償訴訟仙台地方裁判所判決に対する声明文」が読み上げられ、参加者一同の承認を得た。

また７月に開催される「第四回ともに生きるを考える神奈川集会～私達のことを私達を抜きに決めないで～」への参加呼びかけがあった。

DPI 日本会議は、障害者権利条約の完全実施をめざし、様々な立場の人と連帯して各課題に取り組んでいる。参加者とともにより一層、当事者の力を結集し「誰ひとり取り残さないインクルーシブな社会」をめざし社会の理解と協力を求めるために各課題の解決に邁進することを確認して全国集会を終えた。

お役立ち！？

東京頸髄損傷者連絡会　鴨治 慎吾

今回は、宿泊時の移乗リフト(レンタル)を調べてみました。頸髄損傷者にとって宿泊時の移乗は色々と問題がありますよね。

FranceBed
フランスベッド株式会社

商品　　床走行式リフト　FL-70
サイズ　全幅 67～93cm　全長 125.5　全高 118～203cm、吊り上げ高さ／33.5～165cm、
ハンガー幅／48cm、脚部高／5.8cm
重量　　50kg　　耐荷重　　120kg
セット内容 リフト本体、手元スイッチ、充電器
電源　　AC100V (50/60Hz)
フル充電 約12時間(90kg負荷で約50回昇降可)
レンタル料金　18,000円　(移乗用ベルト無)
介護レンタル.com (フランスベッド)
HP：https://www.kaigo-rental.com/index.htm
電話 0120-08-3413

PARAMOUNT BED　パラマウントベッド

商品　　床走行式電動介護リフト　KQ－781
サイズ　全幅65～106 全長130　全高131～205cm
重量　　38kg　　耐荷重　205kg
電源　　AC100V (50/60Hz)
メーカーでの直接のレンタルは行っていないそうです。
詳しくは、利用先等の近くの福祉用具を取り扱いしている事業所にお聞きください。
パラマウントベッド
HP：https://www.paramount.co.jp/
電話 0120-03-3648

注意事項
※宿泊先や地域によって、レンタル出来ない場合があります。
※基本的に移乗用ベルトはついていません。別途費用がかかる場合があります。
※必ず、事前に宿泊先に利用することを、伝えてください。
※初めて利用する方は、事前に試乗することをおすすめします。
※別途、移送搬入費がある場合があります。

報道ピックアップ etc

Car Watch　2019年7月18日 19:55

トヨタ、車いす用スロープ採用の低速EV「APM」
東京2020オリンピック・パラリンピック大会専用開発モビリティ公開
競技会場で車いす利用者などの移動をサポート

https://car.watch.impress.co.jp/docs/news/1196848.html

トヨタ自動車は7月18日、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に専用開発したモビリティ「APM（Accessible People Mover）」を公開した。競技会場や選手村など大会施設内で来場者や大会関係者の移動をサポートする短距離・低速型EV（電気自動車）で、大会期間中は約200台のAPMを用意するという。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に専用開発したモビリティ「APM（Accessible People Mover）」（写真：上記HPより）

公開されたAPMのスペックは、サイズが約3.9×約1.6×約2.0m（全長×全幅×全高）。最高速は19km/hで、航続距離は100km。運転者＋乗客5名の「基本モデル」と、大会中の救護活動に対応する「救護仕様」を用意する。

基本モデルは3列シートで、1列目が運転席、2列目が3人掛け、3列目が2人掛けの計6人の定員。乗客席は両側からのアクセスが可能で両サイドの乗り降り補助バーを設置する。

車いす利用時は、2列目のシートが折り畳みが可能で、運転者と車いす1名、乗客2名の定員となる。車いす用のスロープや車いす固定用のベルトも搭載して、車いすの人を含めた乗り降りのしやすさを考慮したという。

基本モデルのほかにも救護仕様は、基本モデルをベースにしつつ2列目、3列目の半面にストレッチャーをそのまま搭載できる仕様にして、救護が必要な人をより安定した状態で搬送できるようストレッチャーの固定台も搭載。ストレッチャーの横には、救護スタッフ2名分の座席も確保するという。

APMの開発を担当したトヨタ自動車 トヨタZEVファクトリーの谷中壯弘氏は、競技会場エリアのセキュリティゲートから競技フィールドや観客席までの移動をサポートするためのモビリティであると説明。

谷中氏は「開発コンセプトは、ラストワンマイルの移動をサポートし、すべての人に、快適で安心安全な移動を提供すること」と、「ご高齢の方やお身体の不自由な方、妊娠中の方など、歩行に少し難しさがある方がおり、そういった方達をぜひサポートさせていただきたいというのが狙い」と話した。

開発にあたっては、リオ大会や平昌大会での視察を反映させたといい、乗降が容易で、車いすでの乗降のためにスロープを設置したほか、乗降に必要な時間をより短くすることなどを目指したという。

今後APMは、テストイベントなどで評価改善を進めて、大会でしっかり使ってもらえるモデルに仕上げて、200台を生産して提供するとしている。（編集部：椿山和雄）

朝日新聞社 2019/07/22 11:06

重度障害のれいわ当選者 変更迫る健常者だけの国会運営

２２日朝まで開票作業が続いた参院選比例区。れいわ新選組からは、重い障害がある２人が当選した。共に大型車いすや介助者が欠かせず、国会の受け入れ態勢作りが急務だ。

木村英子氏（５４）は脳性まひで、首から下を自由に動かせない。当選を決めた２２日未明、「国会が重度障害者を入れてくれるのかというところから始まる。どれだけ合理的な配慮が整うのか。乗り越えなければならない壁だ」と語った。

国会議員では過去に、郵政相などを務めた八代英太氏が車いすを使用し、国会玄関のスロープや車いすで入れる本会議場の議席が設けられた。だが、今回当選した２人が使うのは大型の車いす。参院事務局によると、設備がそのまま使えるのか、確認が必要という。

２人の行動に不可欠な、介助者の扱いも課題だ。もう１人の当選者で、筋萎縮性側索硬化症（ＡＬＳ）患者の舩後（ふなご）靖彦氏（６１）は手足を動かせず、声が出せないため、目や口の筋肉のわずかな動きと文字盤で介助者に意思を伝える。しかし、いまの国会では、付添人の同行の規則がない。

© 朝日新聞社 初当選し、記者会見に臨むため車いすでスロープを上る「れいわ新選組」の木村英子氏
＝２０１９年７月２２日午前１時、東京都千代田区、西畑志朗撮影

参考ＨＰ：Buzz Feed News　2019/07/21 09:01

https://www.buzzfeed.com/jp/naokoiwanaga/handicapped-reiwa

障害者が国政に打って出る理由　「障害者が幸せな社会はみんなが生きやすい社会」

今回の参院選には、複数の障害者が立候補しています。なぜ国政に打って出るのでしょうか。選挙最終日に東京で演説した２人を軸に、取材しました。（岩永直子　Naoko Iwanaga）　**内容HP参照**

毎日新聞 2019 年 6 月 8 日　東京朝刊

水増し問題　改正法成立　勧告規定、官公庁への監督強化

中央省庁の障害者雇用水増し問題を受け、再発防止策を盛り込んだ改正障害者雇用促進法が７日の参院本会議で全会一致で可決、成立した。中央省庁や地方自治体で働く障害者の人数や状況を的確に把握するため、行政機関に対する厚生労働省の勧告規定を創設するなど監督機能を強化する。一部を除き、２０２０年４月から施行される。【梅田啓祐】

現行法に基づく「障害者雇用率制度」は、一定割合以上の障害者を雇うよう公的機関や企業に義務付けているが、中央省庁は長期にわたって対象外の職員を不適切に算入していた。改正法では、障害者数を不正に計上した場合には厚労省が勧告できる規定を創設。これまで民間企業に課されていた障害者手帳の写しなど確認書類の保存を、官公庁にも義務付けた。

また、離職防止策の一環として、働きやすい職場づくりに向けた障害者活躍推進計画の策定を求めるとともに、障害者を解雇する際にはハローワークに届け出るよう規定した。不当な解雇を防ぎ、早期の再就職支援につなげる狙いがある。

一方、民間に向けては、法定雇用率に算入できない短時間（週１０～２０時間）で働く障害者を雇用した企業に給付金を支給する仕組みや、障害者を積極採用している中小企業の取り組みを評価・認定する制度の創設を盛り込んだ。

政府は法改正とは別に、法定雇用率を達成できなかった中央省庁に対し、雑費などに充てる「庁費」を障害者１人につき年６０万円、翌年度予算から減額する方針だ。

■解　説

水増し発端、不信強く

今回の法改正は、国の行政機関が障害者雇用を水増ししていた問題が発端だ。条文には「自ら率先して障害者を雇用するように努めなければならない」と、公的機関の責務が明記された。さらに、厚生労働省の他省庁に対するチェック機能を強化し、勧告権限を創設することで再発防止を徹底する。

とはいえ、長年にわたって行政機関で続いてきた「偽装」への不信感は依然として根強い。厚労省という同じ官公庁による監督やその実効性に対し、疑問視する民間企業や障害者団体関係者もいる。

政府は法定雇用率達成に向けて今後、約４０００人の障害者を採用する方針だ。雇用率未達成の省庁には予算減額のペナルティーも科すとしている。

障害の特性や働く意欲は人それぞれ。採用の間口を広げるだけでなく、職場への定着も課題になる。個性に応じた勤務形態や、人間関係も含めた職場環境の整備など、雇用の質をどう担保するか。官公庁には、民間の模範となる姿勢が求められている。【梅田啓祐】

DPI 日本会議HP　http://dpi-japan.org/updates/

第 35 回 DPI 全国集会 in 松山が、５月３０日（木）、31 日（金）に開催され
2019 年度の活動方針が決まり、各分野の課題がＨＰに掲載されています。
またテーマ「来たぞ見直し！障害者権利条約の完全実施へ国内法のバージョンアップを！～障害者基本法改正から障害者差別解消法見直しへ～」の全体会、各分科会からの報告が、**新着情報**として公開されています。時間のある時に覗いてみて下さい。

毎日新聞　毎日新聞 2019 年 6 月 18 日　地方版

障害者はかわいそう？「助け合える社会に」子ども向け書籍　難病の海老原さん/東京

子ども向けの書籍「わたしが障害者じゃなくなる日」を出版した海老原宏美さん＝東京都東大和市で（写真）

進行性の難病患者で、人工呼吸器を付けて生活する海老原宏美さん（４２）＝東大和市＝が、子ども向けの書籍「わたしが障害者じゃなくなる日」（旬報社）を出版した。「障害のある人もない人も、孤立しないでお互いに助け合える。この本を読んでくれた子どもたちがそんな社会をつくってほしい」。そんな思いが込められた。

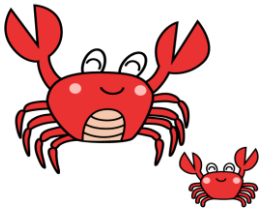
海老原さんは１歳半で、全身の筋力が徐々に低下「脊髄（せきずい）性筋萎縮症」と診断された。呼吸する力が落ち、２０代半ばで人工呼吸器を装着。２０１６年には胃に管を通して栄養を摂取する「胃ろう」を作る手術も受けた。現在は同市で１人暮らしをしながら、障害のある人の生活支援に取り組んでいる。

著書では「障害者ってかわいそうなの？」といった、子どもが疑問に感じやすいテーマを設定し、小学生と実際に交わした会話やイラストを盛り込みながら解説した。１６年に起こった相模原市の障害者施設殺傷事件についても触れ、人権の大切さを語りかける。

海老原さんは「障害というのは、身体のことだけでない」と話し、「不登校やいじめも含めて、社会の仕組みが原因で起こっているような、一人一人が感じる生きづらさも、『障害』です」と説明する。「できないことをお互いに手伝えるような社会なら、そうした生きづらさはなくなり、誰もが普通に生きられるようになるはず」

また、「困っていることをすべて自己完結しなくていいということを知ってほしい」というメッセージも込めた。「人に迷惑をかけたくない」「生きるのがつらい」。そんな気持ちから、自ら死を選ぶ「尊厳死」や「安楽死」を求める声にも危機感を持つ。「困っていることを打ち明けられ、障害や違いを受け入れて一緒に暮らしていく社会を子どもたちとつくっていきたい」と考えているという。

税抜き１５００円。書籍についての問い合わせは同社（０３・５５７９・８９７３）。【蒔田備憲】



障害連事務局FAXレター　NO.412　2019年6月6日（木）

強制不妊手術問題、国は明確に謝罪を

仙台地裁は5月28日、旧優生保護法を“憲法違反”と判断した。一方で、原告たちの賠償請求については認めなかった。

この旧優生保護法問題で、6月5日（水）原告や障害者など300名が国会周辺に集まり、「国の明確な謝罪」や、一時金の額320万円の見直しを求める集会を行った。（文：太田）

障害連、厚労省と意見交換（6.3）

6月3日（月）障害連は、福島みずほ議員事務所の仲介で、厚労省と意見交換をもった。厚労省側は、小林障害保健福祉部障害福祉課課長補佐など9名が対応。障害連側は、11名の役員、加盟団体代表者が参加した。話し合いは、全ての項目で平行線をたどり、今後の課題が明らかになるものとなった。

内容は以下の通り。要望書は障害連のホームページ参照。（文：太田）

要望	回答	備考（課題や感想）
１.65歳問題について	介護保険サービスで足りない部分は、障害者総合支援法で対応するようになっている。介護保険にないサービスが必要な場合も同じ。自治体の判断で。	障害の重い人にとって「重度方訪問介護」の必要性について、今後さらに厚労省に理解してもらう必要がある。
２.入院時のヘルパー利用について	今は区分6の人を対象にしている。今後は状況を見て…。	なぜ入院時にヘルパー利用が必要なのか、実態をもっと知ってもらう必要がある。
３.制度の谷間問題について	いろいろな人の意見を聞きながら範囲のあり方も検討している。	骨格提言があるので、少なくともそれに沿った形で進めてもらうことが課題。
４.生活施設について	虐待防止の研修に力を入れている。外出については地域生活拠点を充実させることによって…。脱施設の目標については、自治体の障害者計画などに沿って…。	質問に対する答えが得られていなかった。施設で暮らす障害者の気持ちに沿ってほしい。

障害連へのカンパのお願い　いつもご支援ありがとうございます

障害者の生活保障を要求する連絡会議（障害連）

〒101-0054　東京都千代田区神田錦町3-11-8　武蔵野ビル５F
TEL　03-5282-0016　　FAX　03-5282-0017
E-mail　shogairen@infoseek.jp
http://www9.plala.or.jp/shogairen/
郵便振替口座番号　00140-5-250039　　加入者名　障害連

全国頸髄損傷者連絡会＆関係団体年間予定

（２０１９年８月～２０２０年７月）

全国頸髄損傷者連絡会事務局

［２０１９年］

８月８～９日(木～金)	日本福祉のまちづくり学会第２２回全国大会(東京・日大理工学部)
８月２１～２３日(水～金)	第３４回リハ工学カンファレンスinさっぽろ(札幌市北海道科学大学)
８月２５日(日)	全国頸損代表者会議(岡山駅近く)
９月２５～２７日(水～金)	ＨＣＲ２０１９国際福祉機器展(東京ビッグサイト)
１０月５日(土)	香川頸損・バーベキュー(香川県)
１０月１０日(土)	２０１９アクセス関西ネットワーク集会 in 神戸(神戸市立勤労会館)
１０月	国立リハセンター並木祭・ブース出展(埼玉県所沢市)
１０月	神奈川＆東京交流会(神奈川県横浜市)
１０月２０日(日)	４都県(福島・栃木・東京・神奈川)合同交流会(栃木県宇都宮市) 京都・大阪合同交流会「京都企画」
１１月２日(土)	人工呼吸器シンポジウム(兵庫県・神戸市勤労会館)
１１月１０日(日)	四国頸損の集い(高知県)
１１月３０～１２月１日(土～日)	ＤＰＩ日本会議 障害者政策討論集会

［２０２０年］

３月	全国頸損代表者会議(場所未定)
４月１６～１８日(木～土)	バリアフリー２０２０(インテックス大阪)
５月２３～２４日(土～日)	全国頸損総会・岐阜大会(岐阜市じゅうろくプラザ・岐阜駅隣接)
５月３０～３１日(土～日)	ＤＰＩ日本会議全国集会(茨城県つくば市)

※全国機関誌『頸損』発行　４月・８月・１２月(年３回)

お問い合わせは該当各支部窓口又は下記全国事務局まで。

全国頸損連絡会事務局
住所：〒6691546兵庫県三田市弥生が丘1丁目1番地の1フローラ88305B
特定非営利活動法人ぽしぶる内
TEL:079-555-6022　Email:jaqoffice7@gmail.com

全国頸髄損傷者連絡会連絡先

（2019年8月現在）

全国頸髄損傷者連絡会・本部
〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘1丁目1番地の1 フローラ88 305B 特定非営利活動法人ぽしぶる内
TEL 079-555-6022 e-mail：jaqoffice7@gmail.com http://k-son.net/
【郵便振替】口座番号：00110-0-62671 口座名義：頸損連絡会
※ 各支部、地区窓口に連絡がつかない場合は本部にお問い合わせ下さい。

福島地区窓口 「福島頸損友の会」
〒961-8031 福島県西白河郡西郷村大字米字中山前146-1（相山方）
TEL 080-1656-1727 e-mail：hidamari.s@gmail.com http://fukushima-keitomo.e-whs.net/

栃木頸髄損傷者連絡会
〒320-8508 栃木県宇都宮市若草1 丁目10 番6 号 とちぎ福祉プラザ内(2F)
TEL&FAX 028-623-0825 e-mail：keison@plum.plala.or.jp http://www16.plala.or.jp/tochigi-keison/

東京頸髄損傷者連絡会
〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-1-2 伊藤マンション205
TEL 090-8567-5150 e-mail：tokyokeisonn@gmail.com http://www.normanet.ne.jp/~tkyksn/index.html

神奈川頸髄損傷者連絡会
〒228-0828 神奈川県相模原市麻溝台696-1 ライム106 号室（星野方）
TEL&FAX 042-777-5736 e-mail：h-futosi@wa2.so-net.ne.jp http://www.k-sonet.jp/

静岡地区窓口
〒426-0016 静岡県藤枝市郡1-3-27 NPO 法人障害者生活支援センターおのころ島気付
TEL 054-641-7001 FAX 054-641-7181 e-mail：matunosuke@cy.tnc.ne.jp

愛知頸髄損傷者連絡会
〒466-0035 愛知県名古屋市昭和区松風町2-28 ノーブル千賀１Ｆ ＡＪＵ自立生活情報センター内
TEL 052-841-6677 FAX 052-841-6622 e-mail：kito@aju-cil.com

頸髄損傷者連絡会・岐阜
〒503-0006 岐阜県大垣市加賀野4-1-7 ソフトピアジャパン702 バーチャルメディア工房内
TEL&FAX 0584-77-0533 e-mail：kson_g@yahoo.co.jp http://g-kson.net/

京都頸髄損傷者連絡会
〒601-8441 京都府京都市南区西九条南田町４番地 九条住宅Ｂ棟313 村田方
TEL 090-8886-9377 e-mail：keison@ev.moo.jp

大阪頸髄損傷者連絡会
〒534-0027 大阪府大阪市都島区中野町3-4-21 ベルエキップ・オグラン1 階 自立生活センターあるる内
TEL&FAX 06-6355-0114 e-mail：okeison@yahoo.co.jp http://rsakurai.hp.infoseek.co.jp/oaq/

兵庫頸髄損傷者連絡会
〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘1 丁目1 番地の1 フローラ88 305B 特定非営利活動法人ぽしぶる内
TEL 079-555-6229 FAX 079-553-6401 e-Mail：hkeison@yahoo.co.jp http://hkeison.net/

香川頸髄損傷者連絡会
768-0104 香川県三豊市山本町神田1223（長谷川方）
TEL 0875-63-3281 e-Mail：tsu-chan.h@shirt.ocn.ne.jp

愛媛頸髄損傷者連絡会
〒799-0433 愛媛県四国中央市豊岡町豊田336-2（山下方）
TEL 0896-25-1290 e-mail：ehimekeison@gmail.com

徳島頸髄損傷者連絡会
〒779-1402 徳島県阿南市桑野町岡ノ鼻28 番地（江川方）
TEL 0884-21-1604 e-mail：awakeisons@gmail.com

九州頸髄損傷者連絡会
〒874-0942 大分県別府市千代町13-14 ユニバーサルマンション2 階　NPO法人自立支援センターおおいた内
TEL 0977-27-5508 FAX 0977-24-4924 e-mail：kkr@jp700.com

編集部のページ

新執行部発足と共に、本部事務局連絡先も変更となりました。
連絡先

全国頸髄損傷者連絡会新事務局
住所：〒669-1546　兵庫県三田市弥生が丘１丁目１番地の１　フローラ 88 305B
特定非営利活動法人ぽしぶる内
TEL：079-555-6022　　E-mail：jaqoffice@gmail.com

※お電話の場合は平日の10時～17時にお願いします。

●全国頸損連絡会振込先
ゆうちょ銀行　口座No.00110-0-6267　全国頸髄損傷者連絡会
振替用紙以外で送金の場合　〇一九（ゼロイチキュウ）店（019）　当座　0062671
セ〝ンコクケイス〝イソンショウシャレンラクカイ
[機関誌封入振替用紙での、活動支援の寄付金もお願いしています]

●編集部連絡先
住所：〒189-0023　東京都東村山市美住町1-4-15-1-105　菊地敏明
TEL：080-6578-8019　　E-mail：narimasu@major.ocn.ne.jp

機関誌広告募集

当機関誌は、全国の頸髄損傷者を中心とする重度障害者会員（５００名弱）及び関係者に講読され、好評を得ています。
内容をご覧いただいたうえで、広告掲載をご検討ください。
是非皆様のお知り合いにもご紹介ください。
[広告掲載要綱]
料金１ページ・２万円。半ページ・１万円。
１年以上継続契約の場合は半額割引。発行は年３回（４月・８月・１２月）です。
問い合わせ、申し込みは編集部・菊地までお願いします。

編集後記

九州頸損連絡会をホスト支部として開催した全国総会を機会に、九州にも新たなネットワークが広がろうとしています。
そんな今だからこそ皆様にお願いがあります。
当会は頸損者の生活向上、情報提供、共助などを目指した活動を続けていますが、各支部で役員として参加してもらえる人が不足しています。
「自分の生活だけでも大変なのに、時間も体力もそんな余裕はないよ」とお考えの方が多くおられると思います。その通りですよね。
でも、時間はアクティブな生活の中でこそ作れるものではないでしょうか。
誰かがつくった制度、街で生活するだけでなく、それを支える側に直接参加し、充足感を味わってみるのも良いのではないでしょうか。
いつでも歓迎です。連絡をお待ちしています。

K.T.

人工呼吸器を使用して自由に生きるために

－人工呼吸器ユーザーが求めること、支援者に求められること－

人工呼吸器をつけると外出できないの？
人工呼吸器をつけると旅行はできないの？
人工呼吸器をつけると働くことはできないの？
人工呼吸器をつけると結婚できないの？

10 数年前にはひとり暮らしをする人工呼吸器ユーザーはあまり見られませんでしたが、時代の流れとともに社会の受け入れ態勢が進み、地域で自立した生活を行う者も少なくはありません。生活に多くの課題を抱えながらも社会に自身の役割を見出し、心豊かな生活を目指そうと奮励努力しています。

でも、考えてみてください。今の時代、人工呼吸器を使用していても、当たり前に「自由な意思」のもと、数多くの選択肢がある豊かな生活が送れるようになっているでしょうか？

本シンポジウムでは、全国で人工呼吸器を使って在宅で暮らす頸髄損傷者をはじめとする肢体不自由者に幅広く呼びかけ、実際にどのような暮らしをしているのか、自己実現していること、自身が生活する上で問題となること、課題解決のために求める要望、どのように暮らしを守り、どのような支援があれば自由な意思を守ることができるのかを聞き、一緒になって考え学びます。

開催日・場所

日時：2019 年 11 月 2 日(土)　9:30 受付　第一部 10:00～12:00　第二部 13:30～17:00
場所：神戸市勤労会館　大ホール　　〒651-0096　神戸市中央区雲井通 5 丁目 1-2
市営地下鉄・JR・阪急・阪神・ポートライナー各三宮駅から東へ徒歩 5 分。
https://www.kobe-kinrou.jp/shisetsu/kinroukaikan/

シンポジウム構成

第 1 部では人工呼吸器ユーザー、ドクターを交えた鼎談
第 2 部では 5 名の県内外から招いた人工呼吸器ユーザーからの報告＆パネルディスカッション
※会場で福祉機器・用具メーカーの商品展示も予定

参加費　無料

問い合わせ

兵庫頸髄損傷者連絡会　人工呼吸器シンポジウム実行委員会　運営事務局
〒669-1546　兵庫県三田市弥生が丘 1 丁目 1 番地の 1　フローラ 88　305B
特定非営利活動法人ぽしぶる内
TEL 079-555-6229　FAX 079-553-6401
E-MAIL hkeison@yahoo.co.jp　　URL http://hkeison.net　　担当：宮野秀樹

二〇一九年八月一日発行
ＳＳＫＡ頸損通巻第一一〇一六号（毎月六回一・六の日発行）
昭和四十六年八月七日第三種郵便物認可

発行人　障害者団体定期刊行物協会
東京都世田谷区祖師谷三―一―十七
ヴェルドゥーラ祖師谷一〇二号室
全国頸髄損傷者連絡会　菊地敏明
編集人　東京都東村山市美住町
一―四―十五―一―一〇五

頒価二五〇円

全国頸髄損傷者連絡会
会　長　　鴨　治　慎　吾
〒669-1546
兵庫県三田市弥生が丘1丁目1番地の1
フローラ88　305B
特定非営利活動法人ぽしぶる内
TEL　079-555-6022
Mail　jaqoffice7@gmail.com